



生涯一捕手「野村克也」 日本海に咲く月見草



先日、虚血性心不全のため 84 歳で亡くなった野村克也氏。ヤクルト、阪神、楽天で指揮をとった名将の突然の訃報に、日本中の野球ファンが絶句した。選手としても偉大すぎる成績を残した野村氏。プロ野球歴代 2 位の通算 3017 試合出場をはじめ、捕手として、打撃でも通算 657 本塁打を記録するなどプロ野球史に残る活躍をみせた。

野村さんは京都府出身。峰山高から 1954 年、テスト生として南海に入団した。57 年に初の本塁打王、63 年に当時のプロ野球記録となるシーズン 52 本塁打を放ち、65 年には戦後初の三冠王に輝いた。だが、同時期に巨人で活躍していた長嶋茂雄や王貞治に比べ、パ・リーグは注目度が低く、「長嶋や王がヒマワリなら、俺はひっそりと日本海に咲く月見草」と話した。70 年、選手兼任監督に就任。73 年にリーグ優勝を果たした。77 年、「生涯一捕手」を掲げて選手としてロッテに移籍。1 年後に西武に移り、80 年に 45 歳で現役を引退した。

解説者時代には、野球中継でストライクゾーンを 9 分割した「ノムラスコープ」で配球の読みを説き、評判となった。89 年野球殿堂入りし、90 年にヤクルトの監督に就任。データを重視する「ID 野球」を掲げてチームを改革し、92 年にリーグ優勝。93 年も連覇し、日本シリーズで前年に敗れた西武に雪辱して初めて日本一に輝いた。95、97 年にもヤクルトを日本一に導くなど、卓越した野球理論と巧みな戦術で名将の仲間入りを果たした。他球団を戦力外になった選手を何人もよみがえらせて、「野村再生工場」と評された。98 年限りでヤクルトの監督を退任すると、翌 99 年から阪神の監督に。02 年秋から 05 年までは、社会人野球シダックスの監督を務めた。06 年に創設 2 年目を迎える楽天の監督に就任。09 年には 2 位で初の A クラス入り、クライマックスシリーズ進出を果たした。手腕だけでなく、試合後の独特のボヤキもテレビのスポーツニュースで流れるなど人気を集めた。

2/11「朝日新聞」

《名言》「もうダメではなく、まだダメなのだ」「好かれなくても良いから、信頼はされなければならない。嫌われることを恐れている人に、真のリーダーシップは取れない」「うまくいっているときは、周りに人がたくさん集まる。だが一番大切なのは、どん底のとき、誰がそばにいてくれたかや」「恥ずかしいと感じることから進歩は始まる」「1 年目には種をまき、2 年目には水をやり、3 年目には花を咲かせましょう」「失敗の根拠さえ、はっきりしていればいい。それは次につながるから」「叱ると褒めるというのは同意語だ。情熱や愛情が無いと、叱ってもただ怒られているというところえ方をする」「どうやったらライバルとの競争に勝てるか考えたとき、1 日 24 時間の使い方の問題だと思った」「リーダーシップとは人を動かす、先を読むこと。人を動かすのは生きがい、夢、希望、目標、目的、ビジョン、興味、関心」「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」(松浦静山) など。

